

第2回 特定複合観光施設（IR）に関する有識者懇談会 開催概要

開催日時：平成30年8月30日(木) 14:30～17:15

開催場所：TKP札幌ビジネスセンター赤れんが前
会議室「すずらん」

[議題1 第1回のテーマに関する方向性の確認]

○ 事務局より、「北海道IRの基本コンセプト（たたき台）」（別添資料2）について説明後、意見交換を実施。

《主な意見》

(1) IR導入の意義について

- ・ 一口にIRといっても、アメリカ、オーストラリア、ヨーロッパではそれぞれ考え方が異なる。各地域の考え方を参考に北海道らしいIRを目指すべき。
- ・ 雇用創出効果を発揮させるためには、IRの運営に必要な人材の誘致・育成についても併せて検討していくことが必要。
- ・ 依存症などの負の側面がクローズアップされるが、IRに関する住民の正しい理解が重要。問題点の対策を講じることは当然だが、地域経済や財政に資するなどメリットも並行して説明するべき。
- ・ IRを導入することにより、地域偏在、季節格差がむしろ助長される可能性もあることに留意する必要がある。
- ・ 経済効果の試算については、公共インフラの建設工事やギャンブル依存症の対策コストなど、もっと幅広い視点で捉えるべき。

(2) 北海道に相応しいIRの機能・施設について

- ・ IRから全道への送客は非常に重要で、滞在と送客の両立を図ることは極めて重要なポイント。
- ・ MICEについて、世界には1回に1万人規模の開催が出来る会議場・展示場を3ヶ所持っているところもあるが、必ずしも規模を狙う必要はない。道として、どのような市場をターゲットにするかという戦略を考えることが重要。

(3) 懸念される影響対策の方向性について

- ・ 段階に応じた有効な依存症対策というのは、地域での生活支援が重要。生活の乱れという現象をどう克服するか、現場で注力されるべき対策だと考えている。

[議題2 優先すべき候補地について]

- 事務局より、誘致を表明している3地域の概要等(別添資料3)について説明後、3地域の自治体からそれぞれの取組状況等について説明をいただき、質疑を実施。

《主な質疑》

(1) I R誘致に関する地元(経済界、住民等)の反応はいかがか

- 釧路市 : I R誘致は、もともと商工会議所が中心となって動き出した。住民に対しては、市政懇談会の中でI R誘致に関しても説明。ギャンブル依存への懸念の声はあるが、反対運動が起きているわけではない。
- 苫小牧市 : 地元経済会を中心とした推進協議会が、活発な活動を展開している。住民に対しては、セミナーや出前講座を何度も開催している。一部の市民団体からは誘致反対の署名を受理している。
- 留寿都村 : 推進協議会には、地元の観光協会や建設業協会などほとんどの事業者が関わっている。住民に対しては、村政懇談会で周知を図っており、直接的な反対の声は届いていない。

(2) 事業者の関心度合いと対話の状況はいかがか

- 釧路市 : これまで具体的な事業提案はいただいているが、10社程度とコンタクトをとり、5社程度が現地を視察している。地元協議会でも海外に行き、事業者とコンタクトをとっている。
- 苫小牧市 : 国内外の事業者15社から事業提案があり、いくつかの事業者とは具体的な対話を続けている。
- 留寿都村 : 非公式に6社ほどコンタクトがあったが、具体的な検討はこれからになる。誘致については民間主導で検討が進められている。

(3) 民有地の活用にあたり、I R事業者の事業公募への公平な参加をどのように確保する考えか

- 釧路市 : 所有者である財団の確認はとっていないが、地域へ協力したいという声は聞いている。公有地にするかも含め今後の検討。
- 苫小牧市 : 候補地は一企業が所有する民有地であるが、I R導入の際は市に譲渡してもらう方向で検討中。
- 留寿都村 : 候補地は一企業が所有する民有地であり、どう扱うかは今後の協議。

(4) 二次交通等の考え方についてはいかがか。

- 釧路市 : 二次交通は、釧路市だけでなく、東北海道の大きな課題。生活路線とは別の路線確保や、乗り合いタクシーなど新しい仕組みも検討したい。
- 苫小牧市 : 道内外への送客は、空港の機能を活用したい。道内周遊パッケージについて、官民で議論を進めたい。
- 留寿都村 : 民間資金でプライベートジェット用の空港整備を検討。

(5) ギャンブル依存症対策等に関し、どのように考えているか

釧路市 : 釧路地域の団体は生活者の自立支援に長けており、依存症対策についてもこうした団体に協力を仰ぐことは可能。

苫小牧市 : 事業者は独自の依存症対策プログラムを持っており、IRの資金を活用して、パチンコも含めた対策をしっかりとしたい。

留寿都村 : 村内にパチンコ店はなく、現時点では、ほぼ対策の必要はないと思われる。

(6) 環境への影響等について、どのように考えているか

釧路市 : 自然公園法に基づき開発は厳しく制限されており、その枠の中で整備を行うこととなる。多くの観光客が周りの自然公園区域内に立ち入ることは危惧している。

苫小牧市 : 環境アセスメントの対象になるか否かは開発面積によるが、いずれにしても、IRは自然との共生がテーマでもあり、自然を壊さない設計を事業者に対話の中で求めている。

(7) 投資金額の事業者間の分担について、どのように考えているか

苫小牧市 : 投資金額の一定程度は、海外のIRオペレーターが用意することになると思うが、残りについては、道内だけではなく、国内企業の出資が必要と考えており、地域の経済界を中心に検討を進めているところ。

(8) インフラ整備の負担について、どのように考えているか

釧路市 : スキー場までのアクセスは、もしIR整備となれば、道路の拡幅等が必要。その整備を行政と事業者のどちらがやるのかは、今後の協議になると考えている。

苫小牧市 : 基本的には必要最低限のインフラが必要だと思っており、市としては、基本的に事業者負担でのスキームができるかどうか検討を進めているところ。

以上